

有限会社スガワラ印刷

TEL.03-3800-1055 FAX.03-3800-1060
 URL <https://www.copimemo.jp/>



菅原 正博
代表取締役

代表者：代表取締役 菅原 正博
 所在地：〒116-0012 荒川区東尾久3-11-24
 資本金：300万円
 従業員：4人
 創業年：昭和36年
 業種：印刷業
 事業内容：事務用帳票類
 (オフセット印刷、複写式ふせん)

デジタル化の今こそ有能な人材ネットワーク

昭和36年に先代が端物(はもの)印刷で創業し、事務用帳票類の印刷を得意としている。印刷業は設備先行業種と言われ、中小企業と大企業とでは資本や設備力等に大きな差があり、同じ土俵では競争を勝ち抜くことができない。かつての東京の印刷会社は良い悪いは別にして分業化が進み、顧客にワンストップサービスを提供できるネットワークが構築されていた。当社もその協業ネットワークに参加し、経済成長による市場の発展とともに業容を拡大してきたが、デジタル化の進展やインター



工場内の印刷作業

ネットの普及で10年前頃一旦売り上げが落ち込んだ。しかし、2代目の現代表取締役が、大企業などが今さら参入しても無駄、利益が出ないと考える当社の強みである端物印刷をぶれずに追いかけた結果、競合会社が減少していく中、受注が伸びてきていた。その矢先、2年前に始まったコロナ禍の影響による人流の減少と、ペーパーレス化の推進やWEB広告の普及が加速し、当社もご多分に漏れずその流れに巻き込まれ、生き残りをかけて利益確保を探り、経営努力を続けている。

当社の強みは、「ネットワーク=人脈=人材」である。先代が築いた人脈、現代表取締役が大学で培った画像工学分野の人脈、卒業後に他社修行で構築した人脈に今でも助けられている。そして、何よりも1社1社の顧客との信頼関係が最大のネットワークである。顧客のニーズに応え、満足いただける商品を提供し続けることは決して容易ではないが、顧客を大切に、仲間とともに切磋琢磨している。

完全受注型が時代にマッチ



印刷と、その周辺領域で、さまざまな技術・ノウハウを培ってきており、それが財産だと自負している。会社の業態としては、提案型を目指したこともあったが、今は完全受注型を志向している。帳票類を中心に、ぶれずに地道に印刷の注文仕事を続けることが、今の時代にマッチしていると思えるからだ。印刷業界に築いたネットワークも当社の強みで、同業他社と、よく仕事を融通し合っている。

主な保有設備

- ・オフセット印刷機(四六四切機×2台)
- ・断裁機1台
- ・折り機1台

複写ふせん紙や名物最中の個包装紙も

当社では、特許技術を活かし「コピメモ®」を商品化している。「コピメモ®」は、いわゆる複写できるポストイットで、現在アマゾンで「メモッ多」という商品名で販売し、年間を通しコンスタントに売れている。また、ノベルティとしても広く採用され、荒川区の産業振興シンボルキャラクター「わざ丸」をあしらったものや企業独自仕様の複写可能なポストイットとしても利用されている。



「わざ丸」の複写ふせん紙

趣を異にする当社の商品として、日本モータースポーツファンの聖地と呼ばれる、三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキット近くにある「とらや勝月」の製造販売する「ライダーもなか」の個包装紙がある。この地の名物である「ライダーもなか」の魅力を高めているのが、疾走するバイクを墨絵で描いた個包装紙。この絵は、モータースポーツを墨絵で描くことで有名なイラストレーター垂井ひろし氏の作品で、彼は現代表取締役のバンドマン時代の仲間という縁もあり、当社は長年この最中の個包装紙を印刷し納入している。



人気画家の墨絵を印刷した「ライダーもなか」の個包装紙

また、別の事例では、某不動産会社の依頼で明治以前の荒川区の古地図を当社のデジタル技術により複製し、アーカイブ機能により半永久的に検索、閲覧、および出力を可能にした。この事業により、貴重な文化資産の継承を実現し多方面への活用を広げたことで、小さいながらも良い仕事をする会社と評価を受けた。このように、紙からデジタル分野に事業範囲を広げることで、受注範囲を拡大している。

主な認証・実績等

- ・特許：「付箋紙」(特許5697190号)
- ・商標：「コピメモ」(登録5340918号)
- ・中小企業基盤整備機構「販路開拓支援事業」採択
- ・東京都中小企業振興公社「中小企業ニューマーケット開拓支援事業」採択
- ・第3回 TASK ものづくり大賞奨励賞受賞
- ・テレビ、新聞、雑誌等メディアにて紹介